

成果報告書

若い人にとって魅力のあるまちづくりへの提言

静岡県立大学経営情報学部

藤本ゼミ(研究室)

指導教員：教授 藤本健太郎

参加学生：池戸龍、出雲愛理、栗田優花、
吉川彰莉、櫻井愛弓、竹山航平、花田琴美、
望月玲那

1. 要約

若者にとって魅力あるまちはどのようなものであるかを袋井市に提言するため、まず若い世代が就職や結婚などの人生設計についてどのように考えているか静岡県立大学の学生103名を対象にアンケート調査を実施した。その集計結果の考察と袋井市の現状から提言を考えた。

2. 研究の目的

袋井市は県内で二番目に高齢化率が低く、若い人が比較的多いまちである。しかし、結婚や就職で転出してしまう場合が多いことが分かっており、日本全体同様に袋井市も人口減少が見込まれている。そのため若い人にとって魅力あるまちはどのようなものなのかを考えるためアンケート調査を行い、その結果と袋井市の現状から、袋井市が若い人にとって魅力あるまちになるにはどのようにすればよいのかを若者目線で提言を行う。

3. 研究の内容

静岡県立大学の学生103名(男性45名、女性58名)に行ったアンケート調査を行った。その結果の概要は以下のとおり。

イ) アンケート回答者の出身地と就職を希望する地域

女性 58 名

	静岡県出身	静岡県外出身	計	割合	静岡県内出身者の中での割合	静岡県外出身者の中での割合
静岡県内で就職	45	3	48	82.76%	91.84%	33.33%
静岡県外で就職	4	6	10	17.24%	8.16%	66.67%
計	49	9	58	100.00%	100.00%	100.00%

男性 45 名

	静岡県出身	静岡県外出身	計	割合	静岡県内出身者の中での割合	静岡県外出身者の中での割合
静岡県内で就職	21	4	25	55.56%	75.00%	23.53%
静岡県外で就職	7	13	20	44.44%	25.00%	76.47%
計	28	17	45	100.00%	100.00%	100.00%

男女 103 名

	静岡県出身	静岡県外出身	計	割合	静岡県内出身者の中での割合	静岡県外出身者の中での割合
静岡県内で就職	66	7	73	70.87%	85.71%	26.92%
静岡県外で就職	11	19	30	29.13%	14.29%	73.08%
計	77	26	103	100.00%	100.00%	100.00%

静岡県で就職したいという学生は全体で7割、さらに静岡県出身者で静岡県で就職を希望している学生は全体の約8.5割であった。

ロ) 静岡県に就職を希望する理由

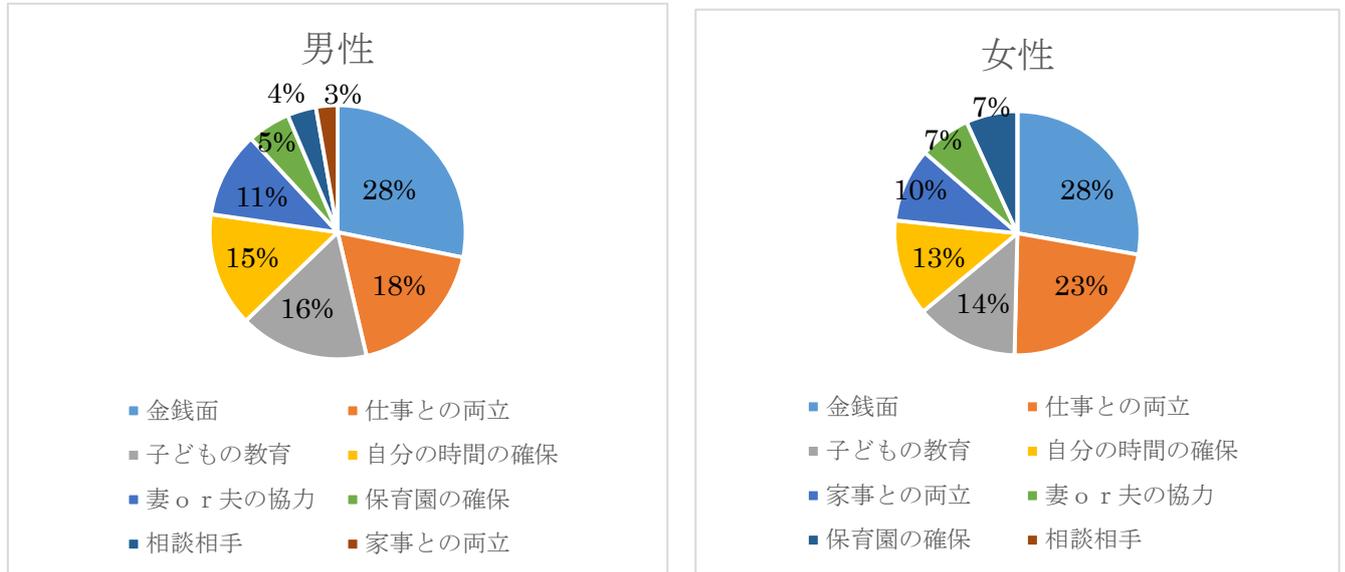
上記のアンケート結果から静岡県内に就職を希望する学生が多数いることが分かった。静岡県に就職を希望する理由としては、実家があるから、住み慣れているから、地元だから、静岡が好き、県大に入学したから、などが挙げられた。

ハ) 就職先に求めること

更に学生が就職をするに当たって企業を決める上での優先条件を回答してもらった。その結果、回答が最も多かったのは給与19%であり、次いで福利厚生17%、自分が長く続けられるか14%、職場環境13%という順番であった。

二) 出産・育児について

子育てへの不安についての結果は以下の通りになった。



不安要素として挙げられたのは男女共に、1位金銭面、2位仕事との両立、3位子供の教育であった。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

10月：学生向けのアンケート調査の作成・実施

11月：アンケート調査の集計

12月：アンケート調査の結果分析・考察、提言の作成

(2) 実際の内容 (A)

10月：学生向けのアンケート調査の作成・実施

11月：アンケート調査の集計

12月上旬：袋井市役員の方と会談

12月中旬：アンケート調査の結果分析・考察

1月：提言の作成

予定どおりに静岡県立大学の学生に対してアンケート調査を行い、意識調査を行った。

予定では袋井市に行き、市役所のスタッフや市内の関連団体との意見交換を行う予定であったが、袋井市役所のスタッフが大学を訪問してくれたため、袋井市における現地調査は実施しなかった。また、アンケート調査結果の分析が学生のみでは十分にできない場合、専門家に謝金を払い、助言を得ることも考えていたが、必要ないと思われたため、学生のみで分析を行った。

(3) 実績・成果と課題

静岡県立大学の学生に対してアンケート調査を実施し、静岡県内に就職を希望する学生は、その理由として「実家があるから」、「住み慣れているから」等を考えていることが分かった。また、就職先については給与面とほぼ同じくらいに福利厚生が重視されていることが分かった。さらに、近年、離職率の高い企業はいわゆるブラック企業の疑いがあるとして学生に敬遠されるが、長く働き続けられるような企業であることも学生から求められていることが分かった。

(4) 今後の改善点や対策

学生メンバー同士での日程調整を早目に行うべきであった。
アンケートの内容をもう少し具体的なものにするとよかった。

5 地域への提言

地域への提言を以下のとおり、まとめた。

アンケートの集計、分析結果から若者にとって魅力あるまちを作るためには、就職支援や出産子育てへの支援が必要であると考えた。

出産・子育てへの対策としては、「フッピーのぽっけ」という袋井市独自の子育て支援アプリに「他の子育て中の方の日記を読むことができる」といったコンテンツを新たに加えることを提案したい。子育て世代の不安の共有に役立ち、アプリの更なる利用増加につながると考えたためだ。また、袋井市の政策を近年活用が進む SNS を使い PR することでより効果的な宣伝につながるのではという案も出た。

就職支援では、「フッピーのぽっけ」のような袋井市独自の就職支援アプリの開発を提案したい。袋井市内の企業の紹介、企業検索では「給与」「福利厚生」など(アンケート結果(ハ)を参照)をチェック項目とし、条件付き検索をできるようにしたり、企業が社内の声や日常を日記形式で記すページがあったりするとよいだろう。アプリ利用者が企業をよく知ることができ、魅力を感じやすくなるといった効果が期待できる。

最後に地域おこし協力隊制度の導入を提案する。地域おこし協力隊は他の市町村でも導入されているところが多くあり、非常に満足度の高いものとされているため期待ができるのではないかと考えた。

6 地域からの評価

12月6日に袋井市企画政策課のスタッフが大学を訪問された際、実施したアンケート調査の中間集計を説明したが、興味深いとの評価を得た。